

植 地 第 9 6 6 号
平成 2 0 年 1 0 月 2 0 日

国土交通省道路局長 様

植木町長 藤井 修



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成 2 0 年 9 月 1 9 日 付け 国道企第 3 7 号 で 依頼 があり ました この こと について、別紙
のとおり 提出 します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

熊本県 植木町

道路は国民生活や産業や経済活動、社会活動を支える最も基本的なインフラのひとつであり地域活性化のためには人的・物的交流を促進する交通インフラの整備はきわめて重要であります。本町も含め地方の道路整備状況は遅れており、その整備は住民はじめ利用者が長年にわたり熱望しているところであります。

小子化、高齢化が進行しつつある中、活力ある地域づくり都市づくりを推進し地域間格差を是正するとともに環境問題にも配慮し、安全で安心できる生活環境や社会環境の実現を図るためには、基幹となる高速道路や幹線国道はもとより生活に密着な道路にいたる広範な道路整備はより重要となっています。

このためには道路財源の確保と無駄を排除することは無論のことであるが、必要な道路は着実に整備するとの施策姿勢が堅持されることが肝要であります。また、これまでの都市偏重の整備は更なる人口・産業の集中を招き必然的に飽和状態や機能低下を助長することとなり、更なる都市偏重型整備の繰り返しにつながるとともに地方活力の衰退をも誘引することにつながるものと思われます、その観点からも地方の活性化を進めて国土の均衡ある発展に大きく寄与する地方の道路整備が強く求められています。

高速自動車道の整備については、国民の目が厳しくなる中、客観的な評価による優先順位に従って選別していく必要があります。「高速自動車道の建設については、当面、未整備の地方主要都市間を結ぶものに限って整備を進める」というルールを提案します。

また、農林水産省の事業として整備された広域農道等、地域の交通ネットワーク上重要な農道については、複数の市町村間を結ぶ路線については、市町村道ではなく県道又は国道にできるよう、制度を改正していただきたい。整備は県農林水産部が行うものの、維持管理は町道に移管されるため、現在の市町村財政と体制では十分な維持管理ができず苦慮しています。省庁間の垣根を越えた連携協力が必要な時期と考えます。

②-1 地域の現状と抱える課題(No1)

熊本県 植木町

○現状 ・ 植木町は、国道3号線、国道208号線、九州自動車道等が走り、又、JR鹿児島本線の2駅もあり、昔から交通の要衝となっているため、交通渋滞が慢性化しています。そのため生活者の住環境に悪影響を及ぼし、ひいては地域の活性化を阻害しています。 ・ 生活道路の改良・維持補修等が財源不足から十分な対策が施されず、急カーブ、急勾配、狭隘路線は改良されず、又、路面に経年変化による割れ等が見られる道路が増えつつある。	○課題 1 現在工事中の国道3号バイパスの早期開通など地方の実情に即した道路網整備を計画的に実施し、又、国道等に並行する高速道路の通行料の引き下げ・割引を行い、慢性的渋滞を早期に解消・緩和すること。 2 高速道路に建設・管理が低コストのスマートICの整備を行い、地域生活の充実、地域の活性化を図る。 3 生活道路の整備(バリアフリー化含む)を行い、生活者の住環境の改善、車両・歩行者の安全確保、災害時を考えた緊急車両の通行確保を図ること。 4 既存道路及び道路建造物の長寿命化を図る適切な維持管理施策を支持し、コスト縮減を図ること。 5 植木町の課題は、極論すれば国道3号線の交通渋滞の早期解消に尽きます。古くから交通の要衝であったため、国道3号線沿いに多くの工場や商店が建ち並んでいます。このため、現在片側1車線を2車線以上に拡幅することは現実的には不可能です。 このため、国道3号植木バイパスが計画され、ようやく暫定区間の建
--	---

○現状	○課題 設が着手され急ピッチで整備が進められていますが、最大の渋滞区間である植木インターから国道208号線までの整備は目途が立っておりません。この間、以下のような問題が発生しています。 (1)企業立地上の問題 国道3号線沿いを中心とする工場は、手狭になり近隣市町村への移転が進んでいます。町では新規企業誘致に力をいれていますが、激しい交通渋滞が企業から敬遠され、新規企業の立地に悪影響を及ぼしています。 (2)交通安全上の問題 渋滞を避け裏道へ次々と通勤車両が入り込み、子どもの通学時間と重なっていつ交通事故が起きてもおかしくない状況です。通勤者にとっても、通勤に大変なストレスがたまります。 (3)町のイメージ悪化の問題 毎日ラジオで流れる交通情報で、欠かさず渋滞箇所として登場するのが「植木町役場前交差点」「植木町舞尾交差点」です。県内ドライバーが県北方面に移動する際には、「いかにして植木町を通らずに移動するか」という話を聞きます。渋滞に巻き込まれたドライバーは、いらいらします。一刻も早く通過しようとし、道沿いの店舗に寄り道もしなくなります。この結果、町のイメージダウンと町内商店への隠れた経済的損失が発生しています。 (4)住宅地としての価値低下と購買力流出の問題 大型量販店が立地する最大のポイントは交通アクセスです。周辺地域からの交通アクセスに優れた場所に量販店は立地し、そこを中心に新たな町が形成され、宅地の価値も上がります。植木町には量販店の立地の話はありません。熊本県内の量販店の分布は熊本市東部～南部に偏っています。植木町は交通アクセスが改善されれば、本来量販店の立地に最も適した環境にあると思われます。植木町の子供達とその親は、頻繁に光の森に出かけ買い物をします。町内から購買力が流出しています。子育て世代の住宅人気は光の森周辺に集中しています。
------------	---

②-2 地域の目指すべき将来像

熊本県 植木町

- 1、国道3号バイパスが全線開通すれば、国道3号線、国道208号線の慢性的な渋滞の解消が期待されるため、安全性が増し、車両等での町内移動がスムーズに行われる。このことにより、住環境改善が促進され生活者にとって住みよい町になる。
- 2、道路財源が確保され、町内の幹線道路、生活道路網を計画的に構築することにより、利便性・安全性が確保され地域活性化が促進され地域産業の振興に大きく寄与することや、駅・バス停から市街地・観光地等とのアクセスが容易になり、観光客の誘致効果が期待され地域が活性化する。

熊本県 植木町

○重点事項 ・地域活力の向上 ・少子高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	○代表事例 ・国道3号線、国道208号線の渋滞解消 ・歩道の拡充と段差解消	○期待する効果や評価 ・町内移動時間の短縮 ・車両の排気ガス・騒音等の軽減 ・交通安全の確保 ・観光客等の増加 ・住環境改善 ・交通弱者への交通安全の確保	○その他 植木町では、国道3号線の渋滞に関して、②に掲げたような課題を有しておりますが、これらの課題は、経済的に評価指標として現れる部分と算定しにくい部分があるのではないかと思います。 こうした算定しにくい部分も含めて、その道路を作る価値を総合的に評価する手法が、必要と考えます。 残念ながら当方ではそのための専門的知識を持ち合わせていませんが、もし植木町をフィールドとして事業評価手法の検討を行っていただけるのであれば、全面的に協力させていただく用意があります。 すなわち、国道3号線バイパスの208号～植木インター区間に関して、事業着手前と完成後の効果を、定量的に評価する手法の開発を、モデル的に実施していただけないか、という提案です。
--	---	---	---